

科目名	異文化コミュニケーションと社会Ⅰ(概論)1～2
授業の目標・ねらい	「登録日本語教員養成コアカリキュラム」に示された一般目標、「様々な社会的状況において円滑なコミュニケーションを実現するために、社会や集団における言語・非言語行動の様相や方略について理解する」に準じ、以下の到達目標に向かって学びます。 ・社会生活における言語活動を達成するための言語的な方略(ストラテジー)や会話を成立させるための仕組みについて理解している。 ・様々な社会的状況において社会や集団において求められる待遇表現について理解している。 ・コミュニケーションにおける言語的な行動及び非言語行動の様相や方略について理解している。
授業内容・授業方法	社会と言語の関係について、具体的事例から改めて捉え直します。また、現在広く使われている教科書・教材を取り上げ、「待遇・敬意表現」等その中に現れている、あるいは隠れている文化的要素を抽出します。日本語の表現や発話の背景となる考え方について意識化することで、多様な文化的背景を持つ学習者への接し方を考えます。「言語変種、ジェンダー差・世代差、地域言語と共通語、地域生活関連情報」などについても扱う予定です。授業の中では現場で使われている教科書や教材を客観的に扱うため、実際に教える立場に立ったときの留意点なども具体的に把握できます。教室活動は小グループでの作業や発表を想定していますが、状況に応じて適宜進め方を変更します。また、「生活者としての外国人」や「日本語支援を必要とする児童・生徒」についても考えることで、日本社会という異文化内で第二言語を習得する際の問題点や難しさについても具体的に考えたいと思います。 ※「登録日本語教員養成コアカリキュラム」5つの全体目標「(2)言語と社会」、15の一般目標(15下位区分)「⑤言語使用と社会」(必須の教育内容: <10>コミュニケーションストラテジー、<11>待遇・敬意表現、<12>言語・非言語行動)に対応
予習・復習	予習・復習: 参考書や授業時に紹介する書籍を読んで、「自分ゴト」として異文化理解を考えてみましょう。授業で扱った用語や内容を整理し、さらにご自分でも深く調べ、考えることが望まれます。
使用テキスト	プリントを配付します。

参考書等	西山教行・細川英雄・大木充編「異文化間教育とは何かーグローバル人材育成のために」くろしお出版、原沢伊都夫「異文化理解入門」研究社/他授業時に紹介します。
講師	村澤慶昭
所属	武蔵野大学グローバル学部
研究分野	音声学、日本語学、日本語教育学、子どもの日本語教育
講師紹介	日本語以外の母語話者に対する日本語教育の実践、子どもに対する日本語支援の他、日本語教育に興味のある学生さんや一般の方々に日本語教育関連の科目を教えています。また、教材開発等にも携わっています。